

# 桜師会の充実に向けて

日本大学全国桜師会宮城県支部長  
川崎町立川崎中学校校長 庄司 毅

朝夕の涼しさから、各地より紅葉の便りも聞かれる季節へと移り変わりを迎えています。今年の仙台の夏は、7月22日から1ヶ月以上にわたり雨が続き観測史上最長となりました。

新学習指導要領が告示され、グローバル化・高度情報化等社会が急速に変化していく中で、少子高齢化の課題を踏まえながら宮城を担う子どもたちの健やかな成長を願いご尽力されていることと御推察申し上げます。さらに、いわゆる「国民保護法」に基づくJアラート・氣象急変への対応やいじめ・不登校・自死等、直接命に係わる喫緊の課題もあります。

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げますとともに、本会の活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

仙台市より引き継ぎ、昨年度から桜師会宮城県支部の会長を仰せつかりました、川崎町立川崎中学校の庄司でございます。事務局の東中学校の川村主幹とともに桜師会の充実に精一杯務めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、8月19日(土)、ホテル白萩において、日本大学宮城県桜師会総会が行われました。皆様にはご多用中にも関わらず、会員14名の出席と、日本大学校友会 小野 隆 宮城県副支部長様にご臨席賜り、盛大に開催することができましたこと、改めて感謝申し上げます。

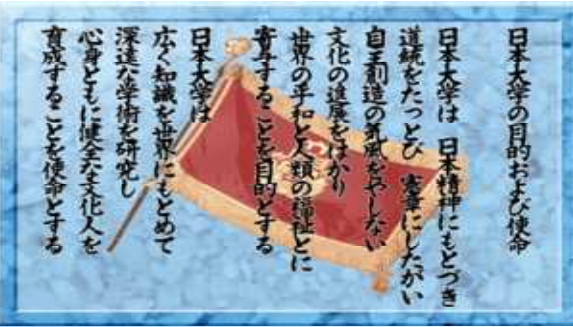
さらに、増子副会長が作成した宮城県桜師会のホームページも新設になりました。(下段参照)

題字は元会長  
加藤忽輔氏書く

宮城県桜師会報  
第31号  
発行  
宮城県桜師会  
会長 庄司 毅



日本大学の関係機関ともリンクしております。ぜひご覧いただき、同窓生に紹介するとともに、ご意見をいただければ幸いです。



## 宮城県桜師会ホームページ



### ようこそ 日本大学宮城県桜師会のホームページへ

本会は、日本大学宮城県桜師会と称し宮城県内在住の校友で教職員にあるもの並びにあったものをもって組織しています。本会は、会員の資質の向上及び親睦を図ることを目的として次の事業を行っています。

- 1 会員の研修に関すること。
- 2 会員相互の親睦に関すること。
- 3 母校の発展及び全国桜師会・校友会宮城県支部事業への協力に関すること。

設立 昭和58年4月1日

日本大学を卒業し宮城県内の公立私立学校教職員として勤務している方の参加をお待ちしています。問い合わせから連絡してください。本会の参加により研修及び親睦を図り、互いの資質向上に努めましょう。

連絡先:宮城県桜師会web担当  
お問い合わせから連絡をお願いします。  
返信お伝えします

平成二十九年度 宮城県桜師会 研修会  
**宮城県桜師会のあゆみ**  
 全国桜師会副会長 鈴木 泰明

私が調べた範囲内でお話し致します。足りない部分は補足をお願いします。

全国桜師会の発足時の会報を見て抜粋してきましたが、昭和40年に東北から参加したのが宮城と青森だけで、秋田・岩手・山形・福島は翌年以降からでした。日大会報「絆」の裏に日大関係の組織が載っています。桜師会という組織は他の組織よりもあとの方にできたものです。支部は47都道府県で65支部あります。



【別紙全国桜師会会報第1号のコピー】  
 宮城県桜師会の初代会長は、県会報の題字を書いていただいた加藤忽輔先生(資料の佐藤は間違いなので訂正してください)。昭和40〜62年までの22年間、宮城県支部長として会報に記載されています。柴田郡の柴田槻木在住で、七ヶ宿町にある西山学院のブレインアドバイザーとして在任していました。幹事長は後山傳治先生(今年2月に逝去)でした。2代目は分からないのですが、3代目は佐藤美佐緒先生、4代目は後山傳治先生でして、このときの幹事長が本日お越しの笠原武文先生です。【資料1-2】

会長が後山先生の時(4〜5年間)、桜師会を盛り上げようと笠原先生の運転で県内各地の役員宅を訪問しました。桜師会の会長が仙台市の方ばかりになつてしまうので、菊地清治先生(元白石市教育長)のアドバイスで、県内を4区分にし、会長の任期を2年として仙台だけでなく各地区ごとにローテーションさせていこうということになりました。この方式で会長を現職が行うようになりました。この方式は全国的に珍しいものです。【資料1-4②】

戦後、教育事情から教員が不足し、高卒・青年師範学校卒の代用教員が大量に採用されてい



通信で免許を取っていました。そのため、県内各地にたくさんの方(現在の会員数は80名を切っていますが、当時は400名を超えていた)がいたのです。【資料1-3①】

その中には、県の指導班班長だった五十嵐光造先生(私は栗原で行われた研究発表会で褒められました)、指導主事の大江信哉先生等もおりました。他にも桜師会のメンバーには教育長となつていらっしゃる方々も多く、若柳の教育長、佐藤宗敏先生、小田の石塚先生、白石の菊地清治先生、最近では仙台市の青沼一民先生や多賀城の菊地昭吾先生などの行政でも活躍されておりました。宮城県桜師会の総会では、発足時から後山先生の指導の下で県教育委員会や仙台市教育委員会の指導の担当者として、招聘し、研究発表会の講評をいただいた



ました。大卒でないため、免許取得の必要から、多くの方が日大の

私(資料1-3②、1-4①)がいたり、懇談会をもつたりしてきました。【資料1-3②、1-4①】各支部の役員さんのご協力もあり、平成10年(2000年)に名簿を作り直しました。後山先生と笠原先生と共に夜間も頑張つて、学部ごとにまとめました。印刷・製本は日大関係者のいる業者に安く作ってもらいました。【資料4】

一民先生の仙台市教育長就任祝賀会、桜師会会員への弔問や弔辞の奉読などを意欲的に行っていました。【資料4⑤】

宮城県仙台市が会場となる全日本大学女子駅伝対校選手権大会で、日大女子駅伝部への応援割当担当として私と後山先生が勾当公園(大学病院)駅前を廻りました。【資料4⑥】

【ここで鈴木先生の説明は終了。当時を知る笠原先生や油川先生からお話をいただきました。】

笠原先生…  
 後山先生と仕事をさせてもらって、仙台に集まってもらうだけではなく、各地区に出向いて話を聞くのが大事だということ、私の小さい車に乗って朝5時半に出発して、後山先生の家に行き、会報を置きながら県内を走りまわりました。当時は県の総会に、なかなか参加できない地区の方々も多くいました。そのため、役員は毎年改選せず、継続していただくようです。プロジェクト制にするときに、最初に引き受ける場所があるのが懸念されていましたが、発案者の白石市の菊地先生の後ろ盾もあり、仙南の角張先生が積極的に引き受けてくれました。県桜師会総会で研修会発表というものが長年続いているように、講師を派遣するように



県教委に頼みに後山先生と出かける、県教委とのつながりが深いことを感じさせられました。後山先生は顔が広く、県庁では教育長や教育次長のところに直接行って、講師を出してくれないかと派遣交渉していただきました。そんな無理難題を聞いてもらって、いろいろ迷惑をかけましたが、今では退職校長会で一緒になる事もあります。その前の佐藤美佐緒先生も、桜師会のことを考えてくださっていました。ただ、思ったより早く亡くなってしまい、知っている人が少なくなつて残念です。全国桜師会に参加したときに、長く続いている宮城県の桜師会の取組を宮城方式として確立したと紹介してきました。今後も全国桜師会で鈴木先生に頑張ってもらい、続けていってほしいと思います。今年2月に亡くなられた後山先生との思い出として、どこをまわったのか覚えていないのですが、楽しくまわらせていただきました。ひどいときは一日で県内をまわり、食事の時間もなく車内で食べました。午前5時半に出発して我が家に着くのは午後9時頃になったのですが、楽しい思い出として残っています。今回、初盆なので鈴木先生と共にご焼香してきました。写真を

見ながら、「今日は桜師会総会だよ。生きていたら一緒に飲んでいたんだろうね。」と話しかけてきました。本日、鈴木先生には桜師会のことについて話していただき、大変ありがとうございました。



油川先生…昭和45年に法学部の大学院を卒業しました。そのとき、日大本部に古田重二良（ふたぢゅうじろう）会頭がつくられた教育制度研究所があり、会頭からは桜師会結成の意義を聞いていました。高等師範出身の古田会頭は教育制度研究所を作り、全国の公立学校の先生方を集めようとしていました。

今日は鈴木先生がお話しをされると言うので、昭和45年4月に作った全国桜師会の名簿をもつてきております。3ページあります。当時の文部省にいます。大出身の方の名前も付けています。名簿によると、鈴木先生は志波姫中学校、笠原先生東仙台中学校にいた頃です。加藤忽輔先生は東二番町小学校に、菊地教育長先生も白石第二小学校に在職してました。

私は古田重二良会頭に大変お世話になりました。副会頭の佐々木良吉（ささきりょうきち）山形鶴岡出身）先生は、師範学校を出て教員になったのですが、もつと勉強が必要だと日大法学部に入り直し、後に同学部

の教授となりました。秋田出身の古田会頭とは仲が良く、後に日大山形を作りました。日大山形高校は3年間だけ第一高等学校といつて日大の附属じゃないときがありました。私が聞いたところでは、その当時の山形市長大久保傳蔵（おおくぼでんぞう）中央大卒）が、附属でないと生きていけないと、池田正之輔（いけだまさのすけ）日大法学部出身・報知新聞社専務）から言われ、市長は中央大出身だったので、日大の附属がいいのではないかと佐々木副会頭に提案した事からできたそうです。宮城県でも、県会議員で私の2つ先輩の中沢幸男先生から聞いたのですが、山形でもこのような動きがあるので、宮城県にも附属高校が欲しいと宮城県出身の千葉先生に話したので、すが、叶わなかったとのこと。そのときに附属ができていれば、宮城県でも日大出身の教



員が増えていたでしように…。私は附属高校で教育実習を行ったのですが、幹事長をされた牛山栄治先生が日大豊山高校の校長でありまして、大変お世話になりました。そして、教員免許状をいただき、後山先生が会長の時より桜師会に参加しています。当時より、後山先生は「母校は自分の人生の中の歴史に残る（消せない）のだから、大事にしないとイケない」と言われており、自分もそう思っています。ただ最近では校友会や桜師会の事務局が附属高校にあるためか、附属の会のようになっているのが懸念されます。また、かつては、県や市から補助金をいただいていた研修会が行われており、内容も大変有意義でありました。しかし、それもなくなり、最近では案内を出しても参加者が少なく、帰属意識が足りないのではないかと思っています。もともと母校を大切にしたいものです。近年、東北高校が提携校になったので、今後は校友会との連携を強化していきたいものです。現に校友会の総会には東北高校より理事長や学校長が参加されていますし、日大の通信教育では東北高校が学習センターとなっており、そこに日大出身者も入れてもらっています。通信教育はまだまだニーズがあり、学習センターとして東口の代ゼミ跡を30億円で購入したくらいです。なので、東北高校を日大校友会、そして桜師会にも参加するようにしていけないで

しうか。四ノ宮先生…東北高校の教務の先生には東北6県の桜師会総会への参加案内を送付していただきました。油川先生…現在は東北高校から日大に入れる学部が決まっております。日大にある16学部の全部には至っていません。ただ、これまでは東北高校から日大への実績がなかったのですが、少しずつ増えています。なので、ゆくゆくは桜師会にも参加することができるようではないでしょうか。桜師会の活動は、附属高校のある県ではとても盛んなのです。

最後に鈴木先生より、「私はあと2年で80歳。全国桜師会の役員は80歳定年なので、3年以内に今後の常任幹事を推薦しておいてほしい」との話もありました。



平成二十八年 事業報告

二十八・六・二八	役員会案内発送
七・二八	全国桜師会総会〔桜門会館〕
七・三〇	役員会〔H白萩〕
八・一二	総会案内発送
九・一〇	総会・研修会・懇親会〔H白萩〕
一一・一一	会報発行
二九・二・一一	歴代会長会〔H白萩〕

平成28年度会計決算報告(円)	
1 収入の部	137,208
<収入の部内訳>	
① 27年度繰越金	66,088
② 28年度の会費	46,000
③ 全国桜師会から	10,000
④ 雑収入(ご祝儀等)	15,120
2 支出の部	81,039
<支出の部内訳>	
① 通信費	19,978
② 会報・事務費	5,343
③ 会議・研修費	24,033
④ 慶弔費	13,000
⑤ 負担金	15,080
⑥ 雑費	3,605
3 差引残高	56,169

平成二十九年 事業計画

二十九・六・一	役員会案内発送
六・二四	役員会〔H白萩〕
七・一七	総会案内発送
七・二六	日本大学校友会宮城県支部総会〔仙台ガーデンパレス〕
七・二八	全国桜師会総会〔桜門会館〕
八・一九	総会・研修会・懇親会〔H白萩〕
一一・一一	会報発行

平成29年度会計予算案(円)	
1 収入の部	106,169
<収入の部内訳>	
① 28年度繰越金	56,169
② 29年度の会費	40,000
③ 全国桜師会から	10,000
④ 雑収入	0
2 支出の部	106,169
<支出の部内訳>	
① 通信費	25,000
② 会報・事務費	10,000
③ 会議・研修費	30,000
④ 慶弔費	20,000
⑤ 負担金	15,080
⑥ 雑費	6,089
3 差引残高	0

平成二十九年 桜師会総会・懇親会

平成二十九年八月十九日(土)、県校友会宮城副支部長 小野 隆様をお迎えし、総会・研修会・懇親会がホテル白萩において開催されました。

総会では庄司 毅 会長のあいさつの後、二十八年 度事業報告・決算報告、二十九年 度事業計画・予算案、今後の地区ローテーションについて協議が行われました。また、研修会においては、県桜師会顧問であり、全国桜師会副会長でもある 鈴木 泰明先生に『宮城県桜師会のあゆみ』と題して、その歴史と、前全国桜師会副会長であり、本年二月に御逝去された後山傳治先生との思い出を話していただきました。そして、親交の深かった笠原 武文先生や油川 洋先生からもお話を聴くことができました。かつてのように桜師会の活動を盛り上げていくために、今後は東北高校との連携も深めていきたいとの話がなされました。

また、懇親会では、それぞれの近況報告をしていただき、和やかな雰囲気の中で情報交換も含めた様々な話で盛り上がり、最後に校歌を声高らかに歌い散会となりました。

編集後記・事務局より

事務局を担当させていただき、これまでお目にかかることもなかった多くの先生方に、お目にかかることができたことをたいへん嬉しく思います。

また、会員の皆様方には私の不手際で、ご連絡や文書等の送付に関して、ご迷惑をおかけしたかと存じますが、この場を借りて、お詫び申し上げます。来年度からは、事務局が「東部・登米・南三陸」プロ

宮城県桜師会懇親会



ックに移ります。また、最新の情報発信は『宮城県桜師会ホームページ』(新設)でも行います。今後、皆さまのご支援とご協力をいただけるよう、内容等も充実させて参りますので、是非ともご覧いただき、ご意見やご要望をいただければ幸いです。